

# 《 佐多稲子 没後10年展 》



長崎市出身で、日本を代表する女流文学者の一人である佐多稲子。

没後10年にあたる今年、佐多氏の直筆原稿や山本健吉・風木雲太郎宛の書簡、初刊本などを展示し、苦難に満ちた人生行路をもとに自伝的小説を書きつづけ、文学として結実させた氏の業績を紹介します。

写真提供:「気づかざりき」(ゆまに書房)

## 略歴

- 1904(明治37)年6月1日 長崎市生まれ
- 1915(大正4)年 勝山尋常小学校5年生の途中、一家で上京。キャラメル工場で働く。
- 1928(昭和3)年 窪川いね子の名で 処女作「キャラメル工場から」(戦旗社)を発表。  
戦前 プロレタリア文学運動の代表作家として活躍  
戦後 自らの体験をもとにした数々の名作を発表
- 1963(昭和38)年 「女の宿」(講談社)刊行 **女流文学賞受賞**
- 1972(昭和47)年 「樹影」(講談社)刊行 **野間文学賞受賞**
- 1976(昭和51)年 「時に佇つ」(河出書房新社)刊行 **川端康成文学賞受賞**
- 1983(昭和58)年 「夏の菜 - 中野重治をおくる - 」(新潮社) **毎日芸術賞受賞**
- 1984(昭和59)年 **朝日賞受賞** (長年の作家活動による現代文学への貢献による)
- 1985(昭和60)年 **長崎市諏訪公園に「樹影」文学碑建立**
- 1986(昭和61)年 「月の宴」(講談社)刊行 **読売文学賞受賞**
- 1998(平成10)年10月12日 逝去

## 展示内容

- 直筆原稿 「銀屏風の河童」「三枚の絵葉書」「三分間の経験」など
- 色紙 1932(昭和7)年「婦人公論」二百号記念の懸賞として配布されたもの
- 書簡・葉書 山本健吉宛 福田須磨子宛 風木雲太郎宛 など
- 初刊本 窪川いね子 「キャラメル工場から」(1930)「研究会挿話」(1930)など  
佐多稲子「素足の娘」(1947)「私の長崎地図」(1948)など

期間 平成20年10月1日(水)

平成20年12月26日(金)

場所 長崎県立長崎図書館  
4階郷土資料展示室

9:30~17:00

毎週月曜日と月末は休館

入場無料



お問い合わせ 長崎県立長崎図書館 tel 095-826-5257